

# 道普請人ルワンダでの活動を通して

拓殖大学大学院国際協力学研究科博士前期課程 1年 佐藤 彩香

## 1. はじめに

2018年8月21日～31日の11日間、研究の一環で道普請人ルワンダ様の活動を見学させていただきました。突然の依頼だったにも関わらず、訪問を快く承諾してくださった福林先生、現地で様々な面でサポートしてくださった中島さん、そして現地スタッフの皆さん、大変お世話になりました。ありがとうございました。

今回の訪問ではとても貴重な経験をさせていただき、多くの学びを得ることができました。自分の中での整理も兼ねて、この報告書を書かせていただきます。

## 2. 経緯

私は大学院で国際協力、取り分け東アフリカのハード系インフラの整備が地域に与える影響について研究をしたいと考えていました。そこで、まだ漠然としている自身の研究テーマをより明確にするべくM1の夏休み中に現地を実際に見に行きたいと思っていた際、自身の担当教授から紹介していただいたのが道普請人さんでした。

インターネットでホームページを拝見させていただいた際に、「自分達の道は自分達で直す」というフレーズを見て、深く共感しました。また、土のうを使った住民達による道路整備が、その地元住民に与える影響や、それらの持続発展性について興味を持ち、今夏の道普請人ルワンダ様への訪問を依頼させていただきました。

## 3. ルワンダでの活動

ルワンダでは初めの4日間はキガリオフィスでの基本的な情報収集、残りの5日間でニャマシェケ地区での現地調査と実際に道路工事への参加を実施させていただきました。

### ① キガリオフィス

キガリオフィスでは土のう工法の作業工程やこれまでに実際行なったルリンド地区、ガケンケ地区での工事について説明を聞かせていただいたり、報告書を拝見させていただいたりしました。説明の際に見せていただいた資料には、工事の工程や作業の方法などが記載されていたのですが、絵や写真を使った説明が多く現地の人たちも理解しやすいような工夫がされているように感じました。

オフィスでは基本的にパソコンを眺めていることが多かったのですが、お昼前くらいになると現地のアカウントがどこからかサモサを買ってきてくれました。後から駐在員の中島さんに聞いたところ、頼んでいないのに毎日のように現地スタッフがサモサを買ってきてくれるそうです。一緒に働く人を思いやる気持ちなのか、シェアする文化なのかは

分かりませんが、アフリカらしくとても素敵だなという印象を持ちました。



キガリオフィス近く

## ② ニヤマシェケ地区

ニヤマシェケ地区での工事現場は山奥のキブ湖の近くにあり、1グループ20人×2の2グループ40人の現地の若者達が工事に参加していました。各グループは100メートルずつの工事を、10日間の期間の中で作業を行います。今回工事を行なった道路は広大な畑の間にあり、多くの農民や学校に通う子ども達が日頃から使用している道路でした。しかし、雨季になると周りの畑と高さが変わらないこの道は水没してしまい、多くの地域住民の生活に支障をきたしていた様です。

私が工事に参加させていただいたのは5日目からでしたが、今振り返るとこの時点では工事の半分も終わっていなかった様に感じます。この日から、一緒に作業に参加させていただきましたが、土のうを作ったり運んだり、それを圧縮したり土で覆ったりと、一つ一つの作業が思った以上に大変で、体力には少々自信があったのですが1日目の作業を終えた後には全身が筋肉痛になっていました。この作業を後4日間続けて、100メートル全て終了できるのだろうか、少々心配をした時もありましたが、現地の人々の体力はもちろん、休みながらもしっかりと作業をこなす真面目さに驚かされました。また、道普請人現地エンジニアの声がけが参加していた若者達のやる気を後押しし期間内に工事を終了することができた様に感じています。現場（特に途上国）でのリーダーシップの様なものも学ぶことができました。

また、作業中はグループのみんなが声を掛け合い、喋りをしながら楽しそうに働いている姿が印象的でした。キニヤルワンダが分からない私にもみんな声をかけてくれて、楽しみながら行うことができました。



ニヤマシェケ地区の工事現場



作業をする若者達



完成した道路



CORE と日本ルワンダ政府の看板と  
道路を使う子ども達

#### 4. 最後に

今回の道普請人ルワンダ様への訪問では、生の現場を見学させていただき本当に貴重な経験をすることができました。学校での勉強を通して学ぶことももちろん多いですが、実際に現場で一緒になって作業をすることでしか感じることはたくさんあるなど改めて感じています。正直、一緒に作業をする中で、本当にこんなに大変な肉体労働が現地の人々のためになるのか、と疑問に思ったこともありました。ですが、就職先が十分ではなく様々な理由でインフラ整備等に十分な資金をかけることができないアフリカ、特に農村地域において住民が自らの手で生活を良くするためのノウハウを手に入れ、雇用を生み出すことはとても意味のあることだと感じました。今回一緒に工事をしたニヤマシェケの2つのグループのみんなが今回の経験を、10日間のイベントとして捉えるのではなく、自分たちの将来に繋げて行ける様願っています。

今回の訪問を通して住民参加型工事に対する興味関心がより一層深まりました。この経験を今後の自身の勉強に生かすことはもちろん、将来に繋げていける様に努力していきます。

最後になりましたが、何もできない私の訪問を快く受け入れてくださった現地駐在員の中島さんをはじめとする道普請人ルワンダのスタッフの皆さん、本当にお世話になりました。心から感謝申し上げます。今後の道普請人ルワンダ様のさらなる活躍を期待しております。

